

盛岡バッハ・カンタータ・フェライン西ドイツ演奏旅行記念

# 宗教音楽の夕べ

**1986.4.11**

**岩手県民会館大ホール**

ごあいさつ

盛岡バッハ・カンタータ・フェライン  
代表 木 村 吉 彦

本日は、ようこそおいで下さいました。

前回（昨年11月29日）のメサイア演奏会におきましては、当方の不手際から多くの皆様に御迷惑をおかけいたしました。ここに、あらためておわび申し上げます。これからは、万全の配慮を怠らぬよう、尚一層の努力をいたします。

さて、本日の演奏会は、来たる4月26日から始まります、我団の西ドイツ演奏旅行に先だち、かの地での演奏プログラムをいち早く盛岡の皆様へ御披露しようと企画されたものです。

ここで、今回の演奏旅行実現のいきさつを紹介いたします。

昨年3月のヨハネ受難曲演奏会（仙台宗教音楽合唱団と合同）の録音テープを、指揮者佐々木正利先生が、オルデンブルク在住のブラウン-広瀬美也子氏に聴いていただいたことがそもそものきっかけです。ブラウン-広瀬氏の御尽力により、オルデンブルク市の文化部長から公式の招待状をいただき、企画が具体化しました。その後、デュイスブルク在住の石黒章・真紀御夫妻の御尽力により、デュイスブルク、デュッセルドルフでの演奏会が催されることになりました。こうして、西ドイツ在住の皆さんのおかげをもちまして、10泊11日の演奏旅行が実現しました。その間、4ヶ所（上記にフリゾイテが加わる）、計5回の演奏会が予定されております。

尚、この演奏旅行の実現には、東急観光株式会社の心強いバックアップがありましたことを忘れることができません。岩手県、盛岡市からは公式のメッセージをいただくことになっております。また、文部政務次官工藤巖先生ならびに岩手県議会議員菅三郎先生からも格別の御尽力をいただきました。ここに、皆様への感謝の意を表したいと思います。

奇しくも、本日4月11日は、ハレー彗星の地球最接近の日であります。今宵は、ヨーロッパに思いをはせ、はるか宇宙空間に思いをはせ、宇宙を動かす偉大なる力に思いをはせていただければ幸いです。

最後に、本日の演奏会の御後援各位、佐々木正利、佐々木まり子、鈴木雅明、花崎薫の各先生方に感謝して、ごあいさつといたします。

演奏会によせて

佐々木 正 利

『宗教曲は言葉や信仰の違いを越えて、我々歌う者や聴く者に感動を与えます。しかし、その感動をより掘り下げようとするれば、言葉、すなわち文化の違いという壁にどうしてもぶつかってしまいます。従って我々歌う者が自己満足で終わらずに、このすばらしい異国文化にどこまで肉薄できるか、そしてどこまで聴衆に訴えることができるかが、これからの課題だと思っております』（仙台宗教音楽合唱団コンサート・マスター加藤宏朗氏——「音楽の友」1985年7月号より）

早いもので西ドイツより故郷盛岡へ帰ってきてから満4年、ほぼ時を同じくして始まった盛岡バッハ・カンタータ・フェラインとの新たなおつき合いも、昨年バッハ、ヘンデルの生誕300年を記念して行ったヨハネ受難曲演奏会（3月）、メサイア演奏会（11月）を経て、心からの感動を呼び起こす音楽作りをめざして、いっそう深く着実なものとなって参りました。すでに皆様

御承知のように、私たちが一般的な意味でさす《音楽》の源泉はキリスト教の宗教音楽にあり、仏教国（本来的には無宗教といった方がより正確かもしれない）といわれる我が国でさえ、その内容の理解はともかくも、深い感動を与える音楽として多くの人々に親しまれております。題材として語られるキリスト教の教えが、人間の魂の問題に深く係わり合いをもち、そこから派生して私たちの心の狭間に介在するあらゆる感情に言及しているのも、普遍的、恒常的なものとして全世界の人々に受け入れられているのでありましょう。我が国の合唱熱、特に合唱団の数の多さとレベルの高さは世界も認めるところでありますが、そんな中でバッハを中心にバロック期前後の宗教曲に焦点を絞って研究・演奏をしている私たちのような団体は特異な存在として注目されております。この分野に私たちの目がしっかりと捕えられているのは、ひとえに包容力豊かな人間バッハの大きさと深さに、圧倒的に魅力を感じているからであり、又言葉や信仰の障害を越えて訴えかけてくるキリスト教音楽の真髄に深く感動を覚えるからに他なりません。かつて、世界的指揮者として名高い小沢征爾氏が、武満徹氏との音楽教育談義の中で、音楽や美術に点をつけて優劣を決めるなんてもってのほかだ、と語っておられました。私たちの活動は理想的にも実践的にも、正に結果に捕われるのではなくて、創造過程における精神高揚を重んじ、何者にも圧迫されることなくのびのびと自由に曲作りに勤しむこと、そして稚拙でも純粹に心の通った音楽の再現をめざし、何よりも楽しみながら作曲家の音楽遺産を享受することを目標としております。従って、私たちが最も大切なこととして心に留めおかねばならぬのは、第一にいたずらに自己満足することなく、あくまでみずからを厳しく律しながら、如何にして多くの聴衆の皆様と感動を分かち合うことができるか、そして自己の音楽の可能性に短絡的に見切りをつけることなく（もちろん、それぞれがこなせる範囲内でのことですが）、一歩でも二歩でも、その音楽の本質に迫ろうとする謙虚な意欲です。——前者においては、不本意ながらメサイア演奏会で多くの方にお帰り願うことになりましたこと、深く反省し、心よりお詫び申し上げます。後者においては、本日団員のみでソロを分担致します故、何かと至らぬ点も多かろうと思いますが、何卒御容赦下さいます様お願い申し上げます。

此度、多くの方のお力添えをいただき、私たちの活動の一端が認められて西ドイツに演奏旅行できますことは誠に大きな喜びであります。しかし、私たちはこの旅行を決して華々しく栄誉なるものと受けとめてはならず、日頃取り組んでいる曲の故郷を尋ねることにより、それが生み出された社会的背景や風土、土壌にみずからの身を委ねて、作曲家の心情や個々の楽曲の風情を直接肌で感じとる、言わば研修、修学旅行の意味合いが強いものと理解し、心に刻むべきものであります。その意味でも、本場の伝統を踏襲する当地の2つの聖歌隊と計3回にわたって合同ステージをもてますことや、全行程の約半分に及ぶドイツ人宅への民泊、交流は特別意義深いものと言えましょう。本日を含め計6回を数える一連の演奏会に、団員ともども期待致しますことは、巻頭に御紹介致しました加藤氏の御言葉が、正に過不足なく言い尽くしていることと思います。今回、同行致します仙台宗教音楽合唱団のメンバーの方々も含めて、私たち精一杯の歌声を遠きドイツの地に響かせて参りたいと存じます。心よりの応援をして下さいました皆様の気持と合わせて、ドイツの人々の心に感動を呼び起こすことができますならば、音楽責任者としてこれ以上の喜び、幸せはございません。

## プログラム

### 〈第1部〉 ◎ H. シュッツ 「ドイツ・レクイエム」

献呈文朗読: 前田正二 (IBC) I. コンツェルト  
II. モテット  
III. カンティクム

H. Suhütz

„Musikalische Exequien” (SWV 279—281)

休憩 (10分)

### 〈第2部〉 ◎ H. シュッツ 「クライネ・ガイストリッヒェ・コンツェルテ」より (小宗教重唱曲集)

H. Suhütz

„Kleine Geistliche Konzerte” (1636 / 1639)

- „Fürchte dich nicht, ich bin mit dir” (SWV 296)  
「恐れてはならない、私はあなたとともにいる」  
für Bs I, Bs II 小原一穂、小原浄二
- „Nun komm, der Heiden Heiland” (SWV 301)  
「来たれ異教徒の救い主よ」  
für Sp I, II Bs I, II 菊池誠子、斉藤純子、小原一穂、小原浄二
- „Ich ruf zu dir, Herr Jesu Christ” (SWV 326)  
「私はあなたに呼ばれる、主イエスキリストよ」  
für Sp I, II, III, Br 菊池誠子、斉藤純子、佐々木まり子、小原一穂
- „Bringt her dem Herrn” (SWV 283)  
「神の子らよ、主に帰せよ」  
für Alt 佐々木まり子
- „Schaffe in mir, Gott, ein reines Herz” (SWV 291)  
「神よ、私のために清い心をつくり」  
für Sp, Tn 佐々木まり子、佐々木正利
- „O süßer, o freundlicher” (SWV 285)  
「優しく、親しき主よ」  
für Tn 佐々木正利
- „O misericordissime Jesu” (SWV 309)  
「汝、慈愛にみてるイエス」  
für Tn 佐々木正利
- „O Jesu, nomen dulce” (SWV 308)  
「おお、イエス、甘きその御名」  
für Tn 佐々木正利

### ◎ J. S. バッハ モテット I 番

「主に向かって新しい歌をうたえ」

J. S. Bach Motette Nr. I

„Singet dem Herrn ein neues Lied” (BWV 225)

※本日使用のチェンバロは、1986年 木村雅雄氏作製によるフレーミッシュタイプのものです。



## 佐々木 正 利 (指揮・テノール)

東京芸術大学声楽科卒業。同大学院修士課程及び博士後期課程修了。声楽を畑中良輔、須賀靖元、小林道夫、森 明彦の各氏に、楽理を服部幸三、角食一郎の各氏に、作曲を松本民之助氏に、宗教音楽を岳藤豪希氏に師事。芸大在学中より、バロックから現代に亘る宗教作品、特に J. S. バッハの声楽曲に深い造詣を示し、芸大メサイア公演、定期演奏会はじめ、大学、一般合唱団と多数共演。特に1978年芸大マタイ受難曲公演にて、福音史家として高く評価され、以後そのスペシャリストとして揺るぎない地位を得ている。1979年シュトゥットガルトに渡り、ローレ・フィッシャー教授に師事。同年南ドイツにて数回歌曲リサイタルを開き好評を博す。1980年第6回ライプツィヒ国際バッハ・コンクール声楽部門第5位入賞。同年より1982年まで、デットモルト北西ドイツ音楽大学に学び、ヘルムート・クレッチマル教授に師事。この間同大学定期演奏会でドヴォルザーク・レクイエムのテノール・ソロをつとめたのをはじめドイツ、オーストリア、スイス、フランス、オランダ、ベルギー各地で一流オーケストラ、合唱団と多数共演。1980年ウィーン楽友協会ホールに於るマタイ受難曲においては「若き日のペーター・シュライヤー」と新聞各紙で絶賛される。1982年ハンブルク・ブリュッセルの口短調ミサでは特に高い評価を得た。帰国後もN響、読響、都響、日フィル、新日フィル、東響の定期演奏会に出演し、K・マズア、H・ブロムシュテット、H・リリング、H・ヴィンシャーマン、小沢征爾、秋山和慶の各氏等と共演。1985年ザルツブルグ音楽祭に招かれ、R・バーダー指揮のベルリン聖ヘドヴィヒ聖歌隊、ザルツブルグ・モーツァルテウム管弦楽団とバッハ・モーツァルトのソロを歌い好評を博す。滞独中オペラでは、コシ・ファン・トゥッテ・フェランド、フィデリオ、ヤッキーノ、スカララッティ・グリゼルダ・コッラード等で出演。現在までリサイタル8回、NHK-FMリサイタル3回等歌曲の分野でも活躍。長年に亘り、小林道夫氏のもと、東京芸大バッハ・カンタータ・クラブの指揮者をつとめ、後進の指導にあたる。現在岩手大学教育学部音楽科専任講師。二期会会員。仙台宗教音楽合唱団、盛岡バッハ・カンタータ・フェライン、東北大学混声合唱団、岩手大学合唱団常任指揮者。



## 花 崎 薫 (チェロ)

小田原市出身、10歳頃よりチェロを始める。1977年東京芸術大学附属高校卒業後、同大学に入学。東京芸術大学在学中、西ドイツ学術交流会(DAAD)給費生として西ベルリン芸術大学に留学。1981年同大学卒業後、東京芸術大学に復学、1983年東京芸術大学卒業。1984年より新日本フィルハーモニー交響楽団副首席チェリストとして現在に至る。1981年第50回日本音楽コンクールチェロ部門3位入賞、1982年安宅賞入賞。1985年東京・ニューヨーク姉妹都市25周年記念公演参加、カーネギーホールにて室内楽コンサートを行なう。堀江泰、ベルリン・フィル首席チェリスト、エベルハルト・フィンケ各氏に師事。



## 鈴木 雅 明 (チェンバロ)

神戸に生まれる。12才の時より教会のオルガニストを勤め、東京芸術大学作曲科を経て、同大学院オルガン科修了。さらに、アムステルダム・スウェーリンク音楽院にて、チェンバロとオルガン双方のソリストディプロマ取得した。作曲を故矢代秋雄、チェンバロを鍋島元子、トン・コープマン、オルガンを広野嗣雄、ピート・ケーの各氏に師事。1980年ブルージュ国際チェンバロコンクール（通奏低音部門）にて第2位（1位なし）、1982年同オルガンコンクールにて第3位入賞。西ドイツ・ルール州立音楽大学講師を経て、現在松蔭女子学院大学、桐朋学園大学などで教鞭をとっている。

松蔭女子大チャペルのガルニエ・オルガンを用いてコンサートシリーズを企画する他、全国各地でソリスト、指揮者として活躍している。またプロテスタント教会音楽の研究も手がけ、特にカルヴァンの詩篇歌の普及に務めている。日本キリスト改革派東京恩寵教会オルガニスト。



## 佐々木 まり子 (アルト)

東京芸術大学声楽科卒業。同大学院修士課程独唱科修了。毎日学生音楽コンクール西日本一位。NHK 新人演奏会出演。伊藤亘行、森 明彦の両氏に師事。

学部在学中より、小林道夫氏のもとにおける東京芸術大学バッハ・カンタータ クラブ演奏会において数多くのカンタータ、オラトリオのアルトソロを受け持つ。又、大学合唱団及び一般合唱団と多数共演。モーツァルト「レクイエム」「戴冠ミサ」ヘンデル「メサイア」バッハ「ロ短調ミサ」などに出演する。

1980年にデトモルト北西ドイツ音楽大学に留学し、ヘルムート・クレッチマールに師事。その間、北ドイツにおいて、バッハを中心とした宗教音楽演奏会に数多く出演。ヒルデスハイムにおける「アルトソロカンタータ」ミュンスターにおけるC・Ph・E・バッハの「マニフィカート」は新聞紙上で絶賛される。帰国後もH. ヴィンシャーマンとの共演をはじめ、「マタイ」「ヨハネ」両受難曲「ロ短調ミサ」「クリスマス オラトリオ」多数のカンタータ、ヘンデルの「メサイア」「エジプトのイスラエル人」メンデルスゾーンの「エリア」などオラトリオのソリストとして東京を中心に、札幌・仙台・横浜・名古屋の各地で演奏活動を行なっている。

1985年には西ドイツのオルデンプルク・アーヘンにて、ヘンデルの「プロックス受難曲」バッハの「復活祭 オラトリオ」のアルトソロを歌い、1986年にもメサイアのソリストとして渡独。

# 歌詞対訳

H. Suhütz

## Musikalische Exequien

### I. Concert in Form einer teutschen Begräbnis-Missa

(SWV 279)

a) Intonatio : Nacket bin ich von Mutterleibe kommen.

Soli : Nacket werde ich wiederum dahin fahren,  
der Herr hat' s gegeben, der Herr hat' s genommen,  
der Name des Herren sei gelobet.

Capella : Herr Gott Vater im Himmel, erbarm dich über uns.

Soli : Christus ist mein Leben, Sterben ist mein Gewinn.  
Siehe das ist Gottes Lamm, das der Welt Sünde trägt.

Capella : Jesu, Christe, Gottes Sohn, erbarm dich über uns.

Soli : Leben wir, so leben wir dem Herren,  
sterben wir, so sterben wir dem Herren,  
darum wir leben oder sterben, so sind wir des Herren.

Capella : Herr Gott heiliger Geist, erbarm, dich über uns.

b) Intonatio : Also hat Gott die Welt geliebt,

dass er seinen eingebornen Sohn gab,

Soli : auf dass alle, die an ihn gläuben, nicht verloren werden,  
sondern das ewige Leben haben.

Capella : Er sprach zu seinem lieben Sohn :

die Zeit ist hie zu erbarmen,  
fahr hin, mein' s Herzens werte Kron  
und sei das Heil der Armen,  
und hilf ihn aus Sünden Not.  
erwürg für sie den bitteren Tod  
und lass sie mit dir leben.

Soli : Das Blut Jesu Christi, des Sohnes Gottes,  
macht uns rein von allen Sünden.

Capella : Durch ihn ist uns vergeben die Sünd,  
geschenkt das Leben, im Himmel soll' n wir haben,  
o, Gott, wie grosse Gaben.

Soli : Unser Wandel ist im Himmel, von dannen wir auch  
warten des Heilandes Jesu Christi, des Herren,  
welcher unsern nichtigen Leid verklären wird,  
dass er ähnlich werde seinem verklärten Leibe.

Capella : Es ist allhier ein Jammertal, Angst, Not und Trübsal,  
des Bleibens ist ein kleine Zeit, voller Mühseligkeit,  
und wer' s bedenkt, ist immer im Streit.

Soli : Wenn eure Sünde gleich blutrot wäre,  
soll sie doch schneeweiss werden,  
wenn sie gleich ist wie Rosenfarb,  
soll sie doch wie Wolle werden.

Capella : Sein Wort, sein Tauf, sein Nachtmahl dient  
wider allen Unfall, der heilige Geist im Glauben  
lehrt uns darauf vertrauen.

H. シュッツ

## 埋葬のための音楽(ドイツ語によるレクイエム)

### I. ドイツ語による埋葬ミサの形式によるコンチェルト(SWV 279)

a) 前唱：私は、はだかで母の胎から生まれた。

ソロ：私は、ふたたびはだかで、あの世へ行く。  
主は、与えてくれたものを取り去られる。  
主の御名をほめたたえよ。

合唱：天にまします父なる神よ、私達をあわれんで下さい。

ソロ：キリストは私の生命であり、死は私の運命である。  
見よ。この方は、この世の罪をひきうける神の子羊である。

合唱：イエス・キリスト、神の御子よ。私達をあわれんで下さい。

ソロ：私達は主によって生かされ、  
主によって死んでゆく。  
私達が生きることも死ぬことも、すべて神の御心である。

合唱：主なる神、聖霊よ。私達をあわれんで下さい。

b) 前唱：神はこの世の私達を深く愛し、

そのひとり子を私達にお与えになった。

ソロ：そのひとり子を信じる者は墮落から救われ  
永遠の生命をもつ。

合唱：神は愛するひとり子に言った。：

この世に慈愛を与えるときが来た。

私の心の冠よ、行きなさい。

あわれな人々の救い主となり

彼らを罪から救い出しなさい。

あわれな人々を死の苦しみから救い、

あなたと共に生きるようにさせなさい。

ソロ：神の御子、イエス・キリストの血は、  
私達の罪をあがなってください。

合唱：イエス・キリストを通して、私達の罪は赦され、

天上の永遠の生命が私達に与えられる。

おお神よ。なんと大きな贈り物であろうか。

ソロ：私達の歩みは天国にあり、それゆえ、  
私達は、救い主イエス・キリストを待ち望むのである。  
主は、私達のけがれた肉体を浄めてくださる、  
御自身の聖なるおからだと同じようにするために。

合唱：地上は、涙の谷間であり、不安、困窮、苦悩におおわれ、  
楽しみ、幸福は、ほんのつかの間である。労苦に満ち、  
誰もが絶えず争いのうちにある。

ソロ：たとえ私達の罪が血のように赤くとも、  
この罪は雪のように白く浄められるだろう。  
たとえ私達の罪がバラの色のも、  
この罪は羊毛のように白くなるだろう。

合唱：主の御ことば、主の洗礼、主の晩さんは、  
私達を不幸から救い出してくれる。

このことを、聖霊が信仰を通して私達に教えてくれる。

- Soli : Gehe hin, mein Volk, in eine Kammer und schleuss die Tür nach dir zu, verbirge dich einen kleinen Augenblick, bis der Zorn vorübergehe.  
Der Gerechten Seelen sind in Gottes hand und keine Qual rühret sie an,  
für den Unverständigen werden sie angesehen, als stürben sie,  
und ihr Abschied wird für eine Pein gerechnet, und ihr Hinfahren, für Verderben,  
aber sie sind in Frieden.  
Herr, wenn ich nur dich habe,  
so frage ich nichts nach Himmel und Erden.  
Wenn mir gleich Leib und Seele verschmachtet,  
so bist du Gott allzeit meines Herzens Trost und mein Teil.
- Capella : Er ist Heil und selig Licht für die Heiden, zu erleuchten, die dich kennen nicht und zu weiden,  
er ist seines Volks Israel,  
der Preis, Ehr, Freud und Wouue.
- Soli : Unser Leben währet siebenzig Jahr,  
und wenn' s hoch kömmt, so sind' s achtzig Jahr,  
und wenn es köstlich gewesen ist,  
so ist es Müh und Arbeit gewesen.
- Capella : Ach wie elend ist unser Zeit allhier auf dieser Erden,  
gar bald der Mensch darnieder leit, wir müssen alle sterben,  
allhier in diesem Jammertal ist Müh und Arbeit überall,  
auch wenn dir' s wohl gelinget.
- Soli : Ich weiss, dass mein Erlöser lebt,  
und er wird mich hernach aus der Erde auferwecken,  
und werde darnach mit dieser meiner Haut umgeben werden, und werde in meinem Fleisch Gott sehen.
- Capella : Weil du vom Tod erstanden bist,  
werd ich im Grab nicht bleiben,  
mein höchster Trost dein Auffahrt ist,  
Tods furcht kannst du vertreiben,  
denn wo du bist, da komm ich hin,  
dass ich stets bei dir leb und bin,  
drum fahr ich hin mit Freuden.
- Soli : Herr, ich lasse dich nicht, du segnest mich denn.
- Capella : Er sprach zu mir : halt dich an mich,  
es soll dir itzt gelingen,  
ich geb mich selber ganz für dich,  
da will ich für dich ringen,  
den Tod verschlingt das Leben mein,  
mein Unschuld trägt die Sünden dein,  
da bist du selig worden.
- ソロ : わが民よ、部屋に入り、戸を閉め  
怒りが消えるまで、しばしの間、  
そこにとどまっていなさい。  
魂の正しい人々は神の手のうちにあり、  
いかなる苦痛にも彼らは動揺しない。  
義なる人々は、無理解な者には  
死んでいるようにみえる。  
そして、義なる人々の死は、あるいは責苦とみなされ、  
あるいは破滅とみなされる。  
しかし、彼らは安らかに死んでゆく。  
主よ、あなたさえともにいますならば、  
私は天に向かっても地に向かっても何も求めません。  
私の心も身体も疲れ果てているとしても、  
神は、私の心の慰めであり、喜びでもあります。  
合唱 : 神は救い主であり、異教徒たちを照らす聖なる光である。  
異教徒たちが恩恵を受けていることを知らなくとも。  
神は、イスラエルの民の  
賞賛、ほまれ、喜びそして浄福である。  
ソロ : 私達の人生は70年、  
せいぜい80年である。  
たとえ、その人生が価値多きものであるかのように見えても、  
結局、人生は悩みと苦しみの連続である。  
合唱 : ああ、地上の私達の人生はなんとちっぽけなものだろう。  
やがて人間は誰もが死んでゆく。  
この世は、悩みと苦しみに満ち満ちている。  
たとえ主とともに生きるとしても。  
ソロ : 私は知っている。私の救い主は生きており、  
のちに私を地中からよみがえらせてくれることを。  
復活に際して、私はこの同じ皮膚によって包まれ、  
私の肉体のうちに神が宿るであろう。  
合唱 : あなたが死からよみがえられたように  
私も墓の中にとどまることはないでしょう。  
私の一番の慰めは、あなたの昇天であり、  
死の恐怖をもあなたは追い払ってくれます。  
あなたがおられるところへはどこでもまいります。  
私は、いつもあなたとともに生き  
あなたのそばにいたいのです。  
ソロ : 主よ、私はあなたから離れませんので、私を祝福して下さい。  
合唱 : 主は言われた : 主である私にすぎりなさい。  
そうすればうまくゆくだろう。  
私は、すべてをおまえに与えよう。  
そこで、私はおまえに尽くそう。  
死に対しては、私の生命をもってあがない。  
おまえの罪に対しては私の純潔をもってあがなおう。  
そして、おまえは浄福を得るのだ。

## II. Motette (SWV 280)

Herr, wenn ich nur dich habe,  
so frage ich nichts nach Himmel und Erden,  
wenn mir gleich Leib und Seele verschmachtet,

## II. モテット (SWV 280)

主よ、あなたさえともにいますならば、  
私は天に向かっても地に向かっても何も求めません。  
私の心も身体も疲れ果てているとしても、



so bist du Gott allezeit meines Herzens Trost und mein Teil. 神は、私の心の慰めであり、喜びでもあります。

### III. Canticum B Simeons (SWV 281)

Intonatio : Herr, nun lässtest du deine Diener

Chorus I : in Friede fahren, wie du gesagt hat.

Denn meine Augen haben deinen Heiland gesehen,  
welchen du bereitet hast für allen Völkern,  
ein Licht, zu erleuchten die Heiden  
und zum Preis deines Volks Israel.

Chorus II : Selig sind die Toten, die in dem Herren sterben,  
sie ruhen von ihrer Arbeit,  
und ihre Werke folgen ihnen nach.  
Sie sind in des Hand des Herren  
und keine Qual rühret sie.

### H. Suhütz

#### *Kleine Geistliche Konzerte*

„Fürchte dich nicht, ich bin mit dir“ (SWV 296)

Fürchte dich nicht, ich bin mit dir,  
weiche nicht, denn ich bin dein Gott,  
ich stärke dich, ich helfe dir auch,  
ich erhalte dich durch die rechte  
Hand meiner Gerechtigkeit,  
Alleluja.

„Nun komm, der Heiden Heiland“ (SWV 301)

Nun komm, der Heiden Heiland,  
der Jungfrauen kind erkannt,  
dass sich wundert alle Welt,  
Gott solch Geburt ihm bestellt.

„Ich ruf zu dir, Herr Jesu Christ“ (SWV 326)

Ich ruf zu dir, Herr Jesu Christ,  
Ich bitt, erhör mein Klagen,  
Verleih mir Gnad zu dieser Frist,  
Lass mich doch nicht verzagen.  
Den rechten Weg, o Herr, ich mein  
Den wolltest du mir geben  
Dir zu leben, mein' m Nächsten Nutz zu sein,  
Dein Wort zu halten eben.

### III. シメオンによる讃歌(SWV281)

前唱：主よ、今こそあなたの僕を

コーラスI：安らかに逝かせて下さい、あなたの御言葉が成就するためです。  
私の目があなたの救いを見たのですから、  
この救いは、あなたが万民のためにお備えになったものです。  
異邦人を照らす啓示の光、  
あなたの民イスラエルの栄光です。

(ルカ伝2章29—31節、シメオンの讃め歌)

コーラスII：主にあつて逝く者は幸いである。  
彼らは、その労苦を解かれて憩い、  
その業は、彼らについてゆく。  
彼らは、主の手のうちにあり、  
いかなる苦しみも彼らを動揺させることはない。

(ヨハネ黙示録14章13節)

### H. シュッツ

#### クライネ・ガイストリッヒユ・コンツェルトより (小宗教重唱曲集)

「恐れてはならない、私はあなたとともにいる」

恐れてはならない、わたしはあなたとともにいる、  
ひるんではならない、わたしはあなたの神である。  
わたしはあなたを強くし、あなたを助け、  
わが正義の右の手をもって、  
あなたをささえておく。

ハレルヤ。

イザヤ書 41、10

「来たれ異教徒の救い主よ」

きたれ、異教徒の救い主よ、  
処女より生まれたる身を明かせ、  
神にはかかる生まれこそふさわしいと、  
世が驚くように。

ミラノの聖アンブロジウス(約333—397)作のラテン語の讃美歌の  
第1節(ドイツ訳はマルティーン・ルターが行なっている)

「私はあなたに呼ばれる、主イエス・キリストよ」

わたしはあなたに呼ばれる、主イエス・キリストよ、  
わたしは願う、わが嘆きを聴き届けるように、  
わたしに恩寵をいま授けるように、  
わたしを気落ちさせぬようにと。

主よ、あなたは正しい道をば

わたしに与えて、

あなたのために生き、隣人に役立つ、

あなたの言葉を忠実に守るようにしてください。

ヨハン・アグリコーラ作とされる讃美歌の第1節。

„Bringt her dem Herrn“ (SWV 283)

Bringt her dem Herren, ihr Gewaltigen,  
Ehre und Stärke,  
Alleluja.

Bringt her dem Herren Ehre seines Namens,  
betet an den Herren im heiligen Schmuck,  
Alleluja.

Alle Lande beten dich an  
und lobsing dir,  
lobsing deinem Namen,  
Alleluja.

„Schaffe in mir, Gott, ein reines Herz“ (SWV 291)

Schaffe in mir, Gott, ein reines Herz  
und gib mir einen neuen, gewissen Geist.  
Verwirf mich nicht von deinem Angesicht  
und nimm deinen heiligen Geist nicht von mir.  
Tröste mich wieder mit deiner Hilfe,  
und der freudige Geist enthalte mich.

„O süß, o freundlicher“ (SWV 285)

O süß, o freundlicher, o gütiger Herr Jesu Christe,  
wie hoch hast du uns elende Menschen geliebet,  
wie teuer hast du uns erlöst,  
wie lieblich hast du uns getröstet,  
wie herrlich hast du uns gemacht,  
wie gewaltig hast du uns erhoben, mein Heiland,  
wie erfreuet sich mein Herz, mein Heiland,  
wenn ich daran gedenke,  
denn je mehr ich daran gedenke,  
je freundlicher du bist,  
je lieber ich dich habe.  
Mein Erlöser,  
wie herrlich sind deine Wohltaten,  
die du uns erzeigst hast,  
wie gross ist die Herrlichkeit,  
die du uns bereitet hast.  
O wie verlanget meiner Seelen nach dir,  
wie sehne ich mich mit aller Macht  
aus diesem Elende nach dem himmlischen Vaterland.  
Mein Helfer,  
du hast mir mein Herz genommen mit deiner Liebe,  
dass ich mich ohn Unterlass nach dir sehne,  
ach, dass ich bald zu dir kommen  
und deine Herrlichkeit schauen sollte.

「神の子らよ、主に帰せよ」

神の子らよ、主に帰せよ、  
栄光と力を主に帰せよ。  
ハレルヤ。

御名の栄光を主に帰せよ。  
聖なる装いをつけて主を拝め。  
ハレルヤ。

全地はあなたを拝み、  
あなたは賞め歌い、  
御名を賞め歌うだろう。  
ハレルヤ。

詩篇 29、1-2 ; 66、4

「神よ、私のために清い心をつくり」

神よ、わたしのために清い心をつくり、  
わたしのうちに新しい、正しい霊を与えてください。  
わたしを御前から捨てないでください。  
あなたの聖なる霊をわたしから奪わないでください。  
あなたの救いの慰めをわたしは返し、  
喜ばしい霊がわたしを包むように。

詩篇 51、12-14

「優しく、親しき主よ」

優しく親しく慈み深い主イエス・キリストよ、  
いかにあなたは、惨めなわれらを愛したことが、  
いかに高価な救いを与えてくれたことが、  
いかに快くわれらを慰めたことが、  
いかなる栄華をわれらに与えたことが、  
いかに力強く、われらを高めたことが、救世主よ、  
いかにわたしの心は喜びに溢れていることが、救世主よ。  
それを思うにつけ、  
それを思えば思うほどに  
あなたの親しみは増し、  
あなたを愛する気持はついつつ来る、  
わが救い主よ、  
あなたがわれらに示した恵みの  
いかに輝かしいことが。  
あなたがわれらに示した栄光の  
いかに偉大なることが。  
いかにわたしの心があなたを求めることが、  
この惨めな地上から天の故里をめざして、  
いかに力の限り、わたしが憧れることが。  
わが助け主よ、  
あなたがその愛でわたしの心を奪ってしまったから、  
絶えることなく、わたしはあなたを憧れる。  
ああ、やがて主のみもとにたどり着いて  
主の栄華を望めるように。

聖アウグスティヌス《マヌアール》14、1 ラテン語よりマルティ  
ーン・モラーがドイツ訳

„O misericordissime Jesu“ (SWV 309)

O misericordissime Jesu,  
o dulcissime Jesu,  
o gratiosissime Jesu,  
o Jesu, salus in te sperantium,  
o Jesu, salus in te credentium,  
o Jesu, salus ad te confugientium,  
o Jesu, dulcis remissio omnium peccatorum,  
o Jesu, propter nomen sanctum tuum  
salva, salva me, ne peream  
O, o Jesu, miserere,  
dum tempus est miserendi,  
neque me damnes in tempore judicandi.  
Si enim admisi, unde me damnare potes,  
tu non amisisti, unde me salvare potes.  
Sis ergo mihi Jesus,  
propter hoc nomen tuum,  
et miserere mei,  
fac mihi secundum hoc nomen tuum,  
respice me miserum  
invocantem hoc nomen amabile tuum: JESUS

„O Jesu, nomen dulce“ (SWV 308)

O Jesu, nomen dulce,  
nomen admirabile, nomen confortans,  
quid enim canitur suavius,  
quid auditur jucundius,  
quid cogitatur dulcius,  
quam Jesus, Dei filius.  
O nomen Jesu,  
verus animae cibus,  
in ore mel, in aure melos,  
in corde laetitia mea.  
Tuum itaque nomen, dulcissime Jesu,  
in aeternum in ore portabo.

「汝、慈愛にみてるイエス」

汝、慈愛にみてるイエス、  
汝、やさしきイエス、  
恩寵にみてるイエス、  
イエスよ、汝は望み抱く者の救い、  
汝は信ずる者の救い、  
汝にすぎる者すべての救い、  
イエスよ、汝はなべてのわれらの罪のやさしき赦し、  
イエスよ、汝の聖なる御名のゆえに  
救え、われを永遠の死より救え！  
おお、イエスよ、憐れみたまえ  
いまはなお憐れみのときであり、  
審判の日にわれが裁かれざるように。  
たとえ、われが  
汝により裁かれるに価するとも  
汝は誠実にして  
われを救う力を有せり。  
かくて汝はわれの救い主たれ。  
そは汝の名にほかならずや。  
われを憐れみたまえ、  
汝の名によってわれを扱え。  
哀れなるわれを見よ、  
われは汝をその慈愛にみてる名にて呼ぶ。イエスよ。  
聖アウグスティヌス《瞑想録》39、6、8；18、2による祈り

「おお、イエス、甘きその御名」

おお、イエス、甘きその御名、  
寄蹟にみてる御名、力を鼓舞する御名、  
これほどにやさしく歌われ、  
これほどに喜ばしく聴かれ、  
これほどに親しく憐れられるものがあるか、  
イエス、神みずからの御子の名ほどに？  
イエスの御名は  
まことの魂の糧。  
蜜が口に、歌が耳に媚びるように、  
あなたは喜びでわたしの心をみたまえ。  
それゆえにわたしは、やさしきイエスよ、  
今日より永遠にわが口に御名を讃えよう。  
ベルナルド・ド・クレールヴォー (1090—1153年) の讃美歌《Jesu  
dulcis memoria》による祈り

J. S. Bach  
Motette I (BWV 225)

Singet dem Herrn ein neues Lied

1. Singet dem Herrn ein neues Lied,  
die Gemeinde der Heiligen sollen ihn loben,  
Israel freue sich des, der ihn gemacht hat,  
Die Kinder Zion sein fröhlich über ihrem Könige.  
Sie sollen loben seinen Namen in Reigen ;  
mit Pauken und Harfen sollen sie ihm spielen.

2. Choral (Chor II)

Wie sich ein Vat' r erbarmet  
üb' r seine junge Kinderlein,  
so thut der Herr uns Allen,  
so wir ihn kindlich fürchten rein.  
Er kennt das arm' Gemächte,  
Gott weiss, wir sind nur Staub,  
gleich wie das Gras vom Rechen,  
ein' Blum' und fallend Laub.  
Der Wind nur drüber wehet,  
so ist es nicht mehr da.  
Also der Mensch vergehet,  
sein End' , das ist ihm nah' .

Aria (Chor I)

Gott, nimm dich ferner unser an,  
denn ohne dich ist nichts gethan  
mit allen unsern Sachen :  
Drum sei du unser Schirm und Licht,  
und trägt uns unsre Hoffnung nicht,  
so wirst du' s ferner machen.  
Wohl dem, der sich nur steif und fest  
auf dich und deine Huld verlässt.

3. Lobet den Herrn in seinen Thaten,  
lobet ihn in seiner grossen Herrlichkeit.!

4. Alles, was Odem hat, lobe den Herrn!  
Halleluja !

J. S. バッハ  
モテット第1番 (BWV 225)

主にむかって新しい歌をうたえ

1. 主にむかって新しい歌をうたえよ。  
聖徒のつどいで、主をほめたたえなさい。  
イスラエルよ、その造り主を喜び、  
シオンの子らよ、その王を喜びなさい。  
踊りをもって主のみ名をほめたたえ、  
鼓と琴とをもって主をほめたたえよ。

(詩篇149、1-3)

2. コラール (第2合唱)

父が  
その幼な子をあわれむように、  
主はわたしたちをあわれみたまひ、  
わたしたちは幼な子のように主を恐れる。  
主は造られた者の貧しいさまを知っておられる。  
神の知りたもうように、わたしたちは塵にすぎない。  
熊手に撞かる草花か、  
落葉のようなものである。  
ひとたび風が吹けば、  
もはや跡かたもなくなるのだ。  
このように人も死にゆき  
その最後はもはや間近なのだ。

(グラマン作〈わが魂よ、いざ主をほめたたえよ〉第3詩節)

自由詩 (第1合唱)

神よ、これからもわたしたちを顧みてください。  
あなたなしには、わたしたちは、  
なにをなすこともできないのです。  
ですから、わたしたちの傘、光となってください。  
そして、わたしたちがこの希望に、忠実であれば  
あなたは今後もそのようにしてくださるはずです。  
あなたとあなたの愛を、  
ひとすじに頼みとする者は幸せである。

3. その大能のゆえに主をほめたたえよ!  
その偉大なる栄光のゆえに主をほめたたえよ。  
(詩篇 150、2)

4. 生命あるすべてのものは主をほめたたえよ。  
ハレルヤ!  
(詩篇 150、6)

# 盛岡バッハ・カンタータ・フェライン

## <あゆみ>

1977. 2. 27	「カンタータを歌う会」として発足	
1977. 6. 28	「盛岡バッハ・カンタータ・フェライン」に改称。	(指揮)
1978. 2. 26	「バッハコンツェルト」カンタータ第45番、芸大と共演。	小林道夫
1979. 10. 6	「BACH ABEND」カンタータ第158・131番	小林道夫
1980. 2. 27	「バッハの夕べ」カンタータ第80番、芸大と共演	小林道夫
1981. 7. 4	「BACH ABEND」カンタータ第196・182番	小林道夫
1982. 11. 22	「バッハの夕べ」カンタータ第158・4番	佐々木正利
1985. 3. 16・17	「バッハ/ヨハネ受難曲」(仙台宗教音楽合唱団と合同演奏)	佐々木正利
1985. 11. 3	仙台北教会宗教音楽の夕べ「メサイア」	佐々木正利
1985. 11. 29	G. F. ヘンデル生誕300年記念演奏会「メサイア」	佐々木正利

この他、クリスマス・チャリティーコンサート、チャペルコンサート等に出演。

## <ソプラノ>

泉谷麻利子	泉山尚子	井上育子	*伊藤 恵	◎遠藤澄江
及川芳里	及川彩子	大内京子	◎柏百合子	◎雁部伸枝
◎菊池誠子	菊池節子	久保木万喜子	◎斎藤純子	沢田東子
寿松木建子	*鈴木優子	戸蒔優子	名久井志保子	新沼理恵
*畑山由佳	◎藤田育世	古内敬子	松村寿子	村上伊久子
柳田松子	矢幅嘉子	◎吉田真由美	*相澤徳子	*長嶺理恵

## <アルト>

*池田裕子	*井上絃子	井上未由子	*江幡早苗	Evelyn Olson
及川留美	小野成美	◎北山祐子	桐原絹子	*今野誠子
*佐々木潔子	◎佐々木志保子	◎佐々木美奈子	佐藤公高	高橋和枝
高橋尚子	武田敏恵	*西田千代子	*野瀬香織	*金須千賀子
Robin-Sue Alexander		*村木史子	木村千秋	三上真美

## <テノール>

◎阿部 実	石倉久夫	◎織田靖夫	◎昆 和宏	佐々木和哉
◎佐々木朋也	*佐々木徳貴	鈴木康之	◎竹田光宏	*中村 洋
◎山本陽一				

## <バス>

◎稲葉正俊	魚住英昭	◎小原一穂	◎小原浄二	◎賀川宏之
片野嘉明	*加藤宏明	木村吉彦	*工藤成敬	*佐藤清陽
◎佐藤智一	下田 潤	*庄子養悦	◎村上敦司	矢口 尚

\*は仙台宗教合唱団 ◎は団内ソリスト

## 会員募集

只今盛岡バッハ・カンタータ・フェラインでは会員を募集しております。合唱経験の有無、個々のレベルについては全く問いません。現会員は皆それぞれに目標をもって努力しています。合唱が好き、音楽が好きというのが唯一の入会条件でしょうか。バッハの音楽は決してかた苦しいものではなく、人間味あふれ、とてもロマンティックです。皆さん、私たちと御一緒に歌いませんか。どうぞお気軽に練習会場に直接おいで下さい。

- 練習日 毎週火曜日PM6:30~9:00
- 練習会場 カトリック志家教会礼拝堂  
(TEL22-6363)
- 練習曲目 バッハ・カンタータ第45番  
                  〃                  〃                  第102番  
                  〃                  〃                  第187番
- 連絡先 木村吉彦 TEL41-1507  
          斉藤純子 TEL22-2977

後援／

岩手日報

岩手放送

テレビ岩手

NHK盛岡放送局

盛岡市教育委員会

岩手県教育委員会